実施要領 様式11(第13条関係)

【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成21年6月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0270700313
法人名	ケアサポート三沢
事業所名	グループホーム赤とんぼ
所在地	青森県三沢市大字三沢字南山85-1 (電話)0176-54-2332
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年2月13日

【情報提供票より】(平成21年1月15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年5月21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 人, 常勤換算 14人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000~30,000 円	その他の経費(月額)	理美容代 実費 他
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	800 円	

(4)利用者の概要(平成21年1月15日現在)

利用者人数	15 名	男性	3 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.4 歳	最低	67 歳	最高	89 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	三沢市立病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは三沢市の郊外にあり、広い敷地の中に畑や散歩コースが整備されている。また、畑で収穫された野菜は食材に使うほか、そばを収穫した際はそば打ちを行うなど、地域住民との交流に役立っている。

運営者や管理者は職員の異動による利用者への影響を理解しており、異動は行っていない。職員の退職時には利用者や家族に十分な説明を行い、利用者に不安を与えないよう、管理者や職員が協力し対応している。

相談受付段階から、利用者や家族にホーム見学や体験を行い、利用者が安心してサービスを受けられるよう取り組んでいる。また、十分な話し合いをし利用者や家族等、双方の意向に添ったサービスが開始されるよう調整している。

利用者の重度化や終末期の対応についてホームの方針を明確にしており、健康管理や急変事は、その都度利用者や家族、医療機関と話し合い意思統一が図られている。

管理者が管理栄養士であり、彩りや盛り付けを工夫しており、季節の食材を使用した栄養バランスに配慮された献立を作成している。

【特に改善が求められる点】

運営推進会議を開催し、サービスの向上に繋げていくことに期待したい。

地域福祉権利擁護事業等について、家族へ情報提供を行い、事業利用につなげていけるよう、内部研修等により職員が制度の概要を理解することに期待したい。

研修計画を作成し、職員の力量や経験に応じた研修に参加し、グループホームの役割や認知症の理解、認知症者への対応など、基本的なことを学び、サービスの提供につなげていけることに期待したい。

同業者同士との連携や交流の場を設け、情報交換等を行ない、職員の育成や日々のサービスに繋げていけることに期待したい。

やむを得ず、身体拘束を行なう場合の理由や方法、期間、経過観察等について記録を残す体制を整えることに期待したい。また、家族から同意を得る体制を整備してはどうか。

保健所等と連携し、感染症に関する最新情報を収集することに期待したい。また、必要に応じて得られた情報を基に、マニュアルの見直しを行うことに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果を基に職員会議等で話し合い、できるところから改善に向け取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、会議等で評価を行うことの狙いや活用方法を周知しており、職員は理解している。 また、自己評価はユニット会議にて全職員が意見を出し合い作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は6月頃開催に向け会議参加メンバー等について準備中である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>職員は利用者の日々の暮らしぶりを一行日記にし、毎月家族通信と一緒に家族に送付し報告している。また、受診状況や健康状態も合わせて報告しているほか、利用者の金銭管理について出納帳に領収書を添付し報告している。 契約書に外部苦情受付窓口を明示しているほか、事業所内に意見箱を設置し、家族に周知している。家族から出された意見や要望は、会議で話し合い日々のケアに反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し地域交流ができるよう努めている。また、地域住民に、夏祭りやそば打ちなど、ホーム行事への参加を呼びかけたり、市の防災訓練の炊き出しの協力を行うなど地域の方が気軽に訪れることが出来るよう働きかけている。さらに、ホームの理解を得られるよう、利用者の作品を道の駅に展示するなどの情報発信も行っているほか、ボランティアや実習生の受け入れ、ホームの専門性を地域に還元している。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>管理者や職員は地域密着型サービスの役割を理解している。また、事業所独自の理念のほかに、地域密着型サービスの役割を反映させた目標を掲げ取り組んでおり、ホーム内に掲示しているほか、ユニット会議で話し合うなどし、職員の周知を図っている。また、職員は理念を理解しており、利用者とのふれあいを大事にしながら日々のケアに反映させている。 契約時は、利用者や家族の意見を引き出し、事業所の理念や方針をしている。契約改定時や退去の際も、家族に十分な説明をし、同意を得ているほか、退去時は退去先の情報提供を行なうなど支援を行っている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>相談受付段階から、利用者や家族にホーム見学や体験を行い、利用者が安心してサービスを受けられるよう取り組んでいる。また、十分な話し合いをし利用者や家族等、双方の意向に添ったサービスが開始されるよう調整している。 職員はアセスメントで利用者の得意なことを把握しているほか、利用者に寄り添い喜怒哀楽を共感することで、理解するよう努めている。畑仕事やトランプなど職員と一緒に共同しながら生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画には可能な限り利用者の意見を聞くよう努めており、カンファレンスを開催し、全職員の意見や気づきのほか、利用者や家族、関係者等の意見や気づきも反映させた個別具体的なものとなっている。 また、見直し期間を3ヶ月と明示し、利用者の身体状況や希望等に変化が合ったときは、随時見直しを行っている。日々の記録を細部まで行っており、常に介護計画を意識したモニタリングケアを行っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>職員は、個人情報保護法について概ね理解し、利用者の情報等はスタッフルームに保管し、プライバシー等には十分配慮している。また、利用者の声掛けや対応について、会議等で話し合いをし、年長者と接するうえでの常識的な呼びかけを行っている。 管理者が管理栄養士であり、彩りや盛り付けを工夫し、季節の食材を使用した栄養バランスに配慮された献立を作成している。1日の摂取カロリーを概ね1500カロリー、1日の水分摂取量を1000ccとし、摂取量を記録している。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者や職員は地域密着型サービスの役割を理解している。また、事業所独自の理念のほかに、地域密着型サービスの役割を反映させた目標を掲げ取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に掲示しているほか、理念を暗唱したり、ユニット会議で話し合うなどし、職員の周知を図っている。また、職員は理念を理解しており、利用者とのふれあいを大事にしながら日々のケアに反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入し地域交流ができるよう努めている。また、地域住民に、夏祭りやそば打ちなど、ホーム行事への参加を呼びかけたり、市の防災訓練の炊き出しの協力を行うなど地域の方が気軽に訪れることが出来るよう働きかけている。さらに、ホームの理解を得られるよう、利用者の作品を道の駅に展示するなどの情報発信も行っているほか、ボランティアや実習生の受け入れ、ホームの専門性を地域に還元している。外部の方を受け入れる際には利用者のプライバシーに十分配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、会議等で評価を行うことの狙いや活用方法を周知しており、職員は理解している。また、自己評価はユニット会議にて全職員が意見を出し合い作成しているほか、外部評価の結果を基に話し合い、できることから改善に向け取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ開催されていない。6月頃開催に向け会議参加メンバー等について準備中である。	○	運営推進会議を開催し、サービスの向上に繋げていくことに期待したい。
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所へはホーム開設時にパンフレットを配布している。また、ホームの実態の理解を得るため、市の担当課に外部評価の結果を報告している。行政から利用者受け入れ確認等の連絡やホーム運営の助言を得るなど、連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	運営者や管理者は外部研修に参加し地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学び、伝達講習や資料の配布等をしているが、職員が概要を理解するまでに至っていない。	○	家族への情報提供や事業利用につなげていけるよう、内部研修等を行い職員が制度の概要を理解することに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止法について理解し、虐待のないケアに取り組んでいる。また、管理者は虐待を未然に防ぐよう日々ケア状況を観察している。虐待を発見した場合の報告の取り決めがあり、職員は理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は、利用者や家族の意見を引き出し、事業所の理念や方針を示している。契約改定時や退去の際も、家族に十分な説明をし、同意を得ているほか、退去時は退去先の情報提供を行なうなど支援を行っている。</p>		
10	12	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>職員は利用者の日々の暮らしぶりを一行日記にし、毎月家族通信と一緒に家族に送付している。また、受診状況や健康状態も合わせて報告しているほか、利用者の金銭管理について出納帳に領収書を添付し報告している。</p>		
11	13	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が訪問した際、意見や要望等を出しやすい雰囲気作りに努めている。また、契約書に外部苦情受付窓口を明示しているほか、事業所内に意見箱を設置し、家族に周知している。家族から出された意見や要望は、会議で話し合い日々のケアに反映させている。</p>		
12	16	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者や管理者は職員の異動による利用者への影響を理解しており、異動は行っていない。職員の退職時には利用者や家族に十分な説明を行い、利用者には不安を与えないよう、管理者や職員が協力し対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が職員のスーパーバイザーとして業務に関する助言を行っているほか、管理者は、職員の資質向上に向けた職員育成の必要性を十分認識し、取り組んでおり、研修参加後は伝達研修を行い、全職員に周知している。しかし、職員の力量や経験に応じた研修を段階的に受講できるよう、年間研修計画を作成するまでには至っていない。	○	研修計画を作成し、職員の力量や経験に応じた研修に参加し、グループホームの役割や認知症の理解、認知症者への対応など、基本的なことを学び、サービスの提供につなげていかれることに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、同業者との交流や連携の必要性を認識し、グループホーム協議会に加入し、同業者との交流の機会を設けているが、職員同士の交流の機会を設けるまでには至っていない。	○	同業者同士との連携や交流の場を設け、情報交換等を行ない、職員の育成や日々のサービスに繋げていくことに期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談受付段階から、利用者や家族にホーム見学や体験を行い、利用者が安心してサービスを受けられるよう取り組んでいる。また、十分な話し合いをし利用者や家族等、双方の意向に添ったサービスが開始されるよう調整している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はアセスメントで利用者の得意なことを把握しているほか、利用者に寄り添い喜怒哀楽を共感することで、理解するよう努めている。畑仕事やトランプなど職員と一緒に共同しながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者を温かく見守り、意向や思いを把握するよう努めている。また、利用者の意向等が十分把握できないときは、全職員が利用者の視点に立って話し合い、把握するよう努めている。必要に応じて、家族や知人等、関係者からの情報収集も行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画には可能な限り利用者の意見を聞くよう努めており、カンファレンスを開催し、全職員の意見や気づきのほか、利用者や家族、関係者等の意見や気づきも反映させた個別具体的なものとなっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直し期間を3ヶ月と明示し、期間終了後はカンファレンスを開催し、見直しを行っている。また、利用者の身体状況や希望等に変化があったときは、随時見直しを行っている。日々の記録を細部まで行っており、常に介護計画を意識したモニタリングケアを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	市内の受診は職員が担当し、その都度受診カードを作成することで、情報の共有を図っている。市外の受診は家族が行っている。また、協力病院を確保しており、状態に変化があるときは、24時間体制でいつでも受診可能である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援しており、状況変化等があった際はすぐに病院にて診察を受ける体制が整っている。また、家族等を含めた医療機関との情報交換を行っているほか、通院方法や受診結果の伝達方法についても家族等の納得が得られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期の対応についてホームの方針を明確にしており、健康管理や急変事は、その都度利用者や家族、医療機関と話し合い意思統一が図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、個人情報保護法について概ね理解し、利用者の情報等はスタッフルームに保管し、プライバシー等には十分配慮している。また、利用者の声掛けや対応について、会議等で話し合いをし、年長者と接する上での常識的な呼びかけを行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者の言動を急かすことなく、身体状況や精神状況に合わせた柔軟な支援を行なっている。また、利用者優先のケアを心掛け、日々のサービスを提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや苦手な物を把握しているほか、利用者の状況に応じて調理の後片付け等を職員と一緒にやっている。また、職員はさりげなくサポートをしながら、利用者と同じ食事を摂り、会話を楽しみながら食事が楽しい物となるよう工夫している。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	アセスメントにて利用者の入浴習慣や好みを把握しており、入浴は週3回となっているが、入浴時間や方法等利用者の意向を取り入れている。また、利用者の羞恥心や負担感に配慮して1対1の入浴支援を行っている。入浴を拒否する利用者に対しては足浴等で対応するなどの工夫を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や希望、力量等を把握し、調理の後片付け、洗濯たたみ等のほか、園芸やリズム体操、パズル等、役割や楽しみごとを日常生活の中に取り入れている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周りを散歩するなど、日常的に外に出る機会を設けている。また、利用者の希望や習慣を取り入れ、買い物やりんご狩りなど、身体状況に合わせた支援を行っているほか、移動方法や距離にも配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者・職員は、身体拘束の内容や弊害について理解しており、身体拘束は行なわないケアに取り組んでいる。しかし、やむを得ず、身体拘束を行なう場合の理由や方法、期間、経過観察等について記録を残す体制を整えるまでには至っていない。	○	やむを得ず、身体拘束を行なう場合の理由や方法、期間、経過観察等について記録を残す体制を整えることに期待したい。また、家族から同意を得る体制を整備してはどうか。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は自動ドアのため、天候等に配慮し玄関を開放するなど、自由に出入りできるよう取り組んでいるほか、居室には施錠していない。利用者の外出傾向へは見守りや付き添うなどの支援を行っている。また、無断外出時に備え、近隣から協力が得られるよう町内会に働きかけている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施しており、夜間想定訓練においては、具体的な避難誘導策を作成し対応している。また、災害時には、地域住民・町内会長・警察・消防署から協力が得られる体制が整っている。さらに、災害発生に備え、食料や飲料水など3日間程度の物品が用意されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者が管理栄養士であり、彩りや盛り付けを工夫し、季節の食材を使用した栄養バランスに配慮された献立を作成している。1日の摂取カロリーを概ね1500カロリー、1日の水分摂取量を1000ccとし、摂取量を記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルを作成し掲示しているほか、職員会議で、感染症対策について話し合いをしている。訪問時の手洗いや、うがい等、来訪者と共に感染症対策に取り組んでいる。しかし、保健所等と連携し、感染症に関する最新情報を収集するまでには至っていない。	○	保健所等と連携し、感染症に関する最新情報を収集することに期待したい。また、必要に応じて得られた情報を基に、マニュアルの見直しを行うことに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやダイニングテーブル等の調度品は家庭的で、長いすを共有スペースに配置したり、ラグを敷くことにより、利用者が心地よく過ごせる空間となっている。また、職員の立てる物音や、テレビの音量、明るさ等は適当であり、花を飾ったり、大きな窓から望む景色で季節を感じることができる。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には、入居前から愛用していた馴染みの物の持ち込みを働きかけている。持ち込みが少ない場合は利用者の意向を取り入れながら一人ひとりに合った過ごしやすい居室作りを職員と共に行っている。		

※ は、重点項目。